70.　平野川

所在：杭全１丁目～今林４丁目

大阪府が管理する一級河川で、名の通り、平野区の北部を東から西に流れており、大和川からの分派点（柏原市古町二丁目）から第二寝屋川への合流点（森之宮二丁目と中浜一丁目の境）までの 17,4km の川です。

東住吉区では生野区との境界を流れています。東部市場の北側では暗渠（あんきょ）となっており、上部は駐車場に使われています。
現在は、今川が生野区林寺 1 と東住吉区杭全 4 の位置で駒川と合流し、僅か 200m 北東の東住吉区杭全 1 と林寺 6(生野南小学校の南西隅)で平野川に合流しています。
大和川付替の江戸時代中頃までの平野川には、大乗川、大水川、東除川、馬池谷筋(喜連川・今川)、狭山西除天道川の全てが、合流していたので、「河内国息長川論争」の候補河川として、「平野川こそ息長川である」とする説があります。また一方では、「喜連川・今川こそ息長川である」とする説もあります。（平等橋　参照）

71.　今川堤の花の道

所在：杭全２丁目～中野３丁目

花の道

花碑

ぼんぼりと桟敷（さじき）

今川堤の緑道に北は杭全2丁目から、南は中野3丁目迄の15ケ所に美しい花碑が建てられています。中には夏草に覆われて姿を隠し、草刈りの際に、その存在に驚かされるものもあります。
緑道に植えられた花々を紹介し、それにまつわる風俗や習慣、遊び方等が解説されて、ここを散歩する人達を楽しませてくれています。
今川堤は戦前は漆と松が主で、漆堤とも呼ばれた紅葉の名所でした。
戦後になって新しく梅、桃、桜、雪柳等の花や樹木が植えられ、戦前とは趣を変えた、花を愛でる堤として生まれ変わりました。
中でも、桜が沢山植えられたので、桜の新しい名所となり桜の時期には大勢の人が訪れます。紅白幕を張り、ぼんぼりや提灯を吊った桟敷の中で、歌ったり踊ったりしてパーティーや花見を楽しんでいる姿が多くみられます。
今川堤の花碑はこのような花々を紹介し、今川堤を楽しみ、大切にしてほしいとの願いから建造されたものです。散策の折には、一度花碑の前で足を止めてみませんか。

72.　佛願寺（ぶつがんじ）

所在：針中野２丁目３－５９

天堂山　佛願寺
浄土真宗、仏光寺派に属し慶長４年（1599 年）開基
天堂山の山号は、昔、近くを流れていた天堂川（天道川）に由来しているのではないかといわれています。
山門の前（西側）には庚申街道が通っています。

73.　法樂寺（ほうらくじ）

所在：山坂１丁目１８－３０

真言宗泉涌寺派（しんごんしゅうせんにゅうじは）大本山紫金山小松院（しこんざんこまついん）法樂寺（田辺不動尊）が正しい名称で、昔から「田辺のお不動さん」の名で親しまれ、毎月 28 日に多くの参拝者が訪れます。

平家の棟梁・平重盛公の創建。創建の趣旨は、保元・平治の乱（親、兄弟が敵となり戦った）で戦死した霊を怨親平等（おんしんびょうどう）の精神で祀るためであり、源義朝の念持仏・如意輪観音菩薩（にょいりんかんのんぼさつ）が安置されています。戦国時代の石山合戦の時、織田信長によって寺は焼かれました。現在の本堂の建物は書院造り（移築）です。

江戸時代中期の高僧で、梵語（ぼんご）（サンスクリット語）研究、人の道を説いた『十善法語（じゅうぜんほうご）』で知られる慈雲尊者（じうんそんじゃ）（享保 3 年～文化元年（1718 年～1804 年））は 13 歳の時、ここで出家しています。

山門と本堂の間には力強い木組みの三重宝塔が平成 8 年に建立され、樹齢一千年近い楠の大木と相対し法樂寺の象徴となっています。

また、境内には、書家で恩賜賞受賞作家の小坂奇石（こさかきせき）の作品四百点余を収蔵しているリーヴスギャラリー小坂奇石記念館があります。

12 月 28 日の納め不動には、参拝者に田辺大根焚きが振る舞われ、地域の人たちが育てた田辺大根の品評会などが行われます。

74.　法樂寺西側（大道）跡

ほうらくじ

所在：山坂１丁目１８－３０

法樂寺の西側塀に「難波大道（なにわたいどう）がある」との掲示板があります。
実際に掲示板の通りに南に歩くと細い道が山阪神社の鳥居に当たります。
山阪神社は前方後円墳の跡と言われていますが、古墳の成立が大道より古いので、これでは説明が難しくなります。
そこで地図の上で、発掘確認されている「朱雀門跡」（中央区上町 1-19、府立聴覚支援学校内）と、松原市天美西の今池浄水場内にある「大道跡」とを直線で結ぶと、山阪神社の少し東、法樂寺境内の西を抜ける筋に当たります。
つまり、法樂寺西側の壁は難波大道の上に建立されていることになります。
但しこれは難波大道が、上町台地の北端に建設された難波宮の南側正面の朱雀門から一直線に南に伸びる道との仮説に基づくものです

75.　松原住宅の並木

所在：山坂３丁目～４丁目

南田辺には飛鳥時代の伝承がありますが、山阪神社の南(松原新田)や西田辺(猿が沢山住んでいたので猿山新田)が開発されたのは江戸時代です。
寛文 3 年(1663 年)に南田辺村の濱田五兵衛が長らく未開拓であった村の南部の開墾を願い出、この地は松原新田と呼ばれました。(猿山新田は南田辺村の奥田市兵衛の開墾)
また、長池の川筋も松原新田として干拓され、住吉郡田辺村に編入されたのが明治 22 年（1889 年）4 月です。当時、この辺りはまだ野菜農園であって、収穫した田辺大根を山阪神社の南側を東に流れる綺麗な川水で洗っている「のどかな田園風景」が見られました。

大正 3 年(1914 年)4 月に南海平野線が開通し、田辺停留所ができた時にボツボツと住宅開発が始まり、「平野線田辺停留所から南西へ 10 分」との広告が見られたとのことです。
昭和 4 年(1929 年)7 月に阪和線が和泉府中まで開通し、南田辺駅(鶴ヶ丘はなく)や臨南寺駅(長居)ができたので、この沿線での住宅建設が次第に盛んとなりました。
その頃の住宅建設は宅地の間を並木が植えられて、大変風情のあるものであって、松原住宅には 11 本の道路が南北にあり、西から梅檀(せんだん)通、銀杏(いちょう)通、青桐(あおぎり)通などと名付けられていました。
また、松原住宅の中央部の交差点は円形に広くとられ、かつてはここで、バスが転回していたそうです。
しかし、この並木も次第に切り倒されて、今は昔年の面影を失いました。

76.　緑橋と楯原橋

川・堀（環濠）・橋

所在：湯里３丁目２東～湯里６丁目１３南東

今川の改修にあたり、大阪市はこの 2 つの橋を歴史を通じて、人々になじんで貰いたいと願って「歴史の橋」第 1 号に指定し、百済瓦風のデザインが採用されました。

・ 楯原橋：

このあたりの古い字名が「楯原（たてはら）」であったので、橋の名前も「楯原橋」とされました。　実際にこの近くに元の楯原神社が鎮座していたという伝承があります。　橋の四隅の親柱には楯型の御影石が使われています。　この場所から古代の瓦が出土したので、百済の地名があるこの付近に百済からの渡来人が多く住み付き、瓦造りを行ったと考えられています。

・緑橋：

平成 10 年（1998 年）頃に、この橋近くの川面に大きなオニバスが群生し、美しい花を咲かせました。 最近は今川吐水口（とすいこう）から定常的に平野下水処理場の処理水が放出されているので、オニバスが発芽しなくなり、川底に埋まっているとのことです。 つまり、オニバスには川底が干上がるような渇水期が必要なのです。 かわりに、ホテイアオイやコナギが川一面に繁茂しています。

77.　南田辺法界地蔵（みなみたなべほうかいじぞう）

所在：山坂１丁目１９

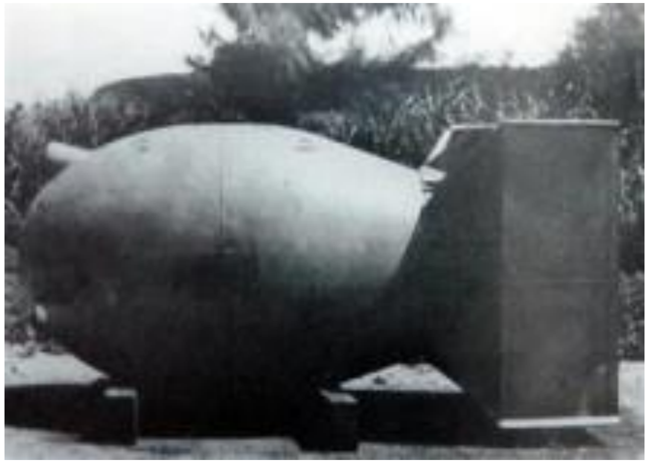
「法界」とは、境を知らせるとの意で、道しるべのことです。

この地蔵尊は、昔より道に迷う人の為に道を教え、現在では、悩める人の人生を示す道標（みちしるべ）となり、家内安全・交通安全を祈る人々を守るといわれ、信仰を集めています。（立て看板より）

昭和の終わり頃までは、山阪神社東の鳥居前を、南へ 20m ほど行ったところの三つ辻の北東角の三角の土地に祀（まつ）られていましたが、土地の所有者が変わり、マンションが建ち、宗教的な問題から移転を要請され、町会として移転先を探し、もとの場所から南へ約 100m の場所に移転しました。しかしここも安住の地でなく、平成 30 年（2018 年）法樂寺が引き受け法樂寺西横の駐車場に愛和地蔵と並んで祀られています。

78.　模擬原子爆弾投下跡地之碑

所在：田辺１丁目１４－１８



終戦間近の昭和 20 年(1945 年)8 月 6 日広島に人類史上初の原子爆弾が投下されました。その 11 日前の 7 月 26 日午前 9 時 26 分大阪市東住吉区田辺 2ー3(現在の田辺小学校北側)に大きな爆弾が投下されました。大阪市が作った「昭和 20 年大阪市戦災概観」という資料には死者 7 人、重軽傷者 73 人、焼失倒壊戸数 485 戸、罹災者 1645 人とその爆弾による被害が記録されています。

実はこれは模擬原爆という特別な爆弾でした。模擬原爆というのは長崎に落とされたプルトニウム原爆（ファットマン）と同じ型、大きさ、重さで、中身がＴＮＴ火薬の約 5 トンの爆弾です。ずんぐりした型で黄色い色彩からパンプキンと呼ばれました。

米軍は終戦近い 7 月 20 日から日本各地への空襲に紛れて模擬原爆を 49 発も投下しました。模擬原子爆弾による被害は死者 400 名､負傷者 1200 名を越えると記録されています。

なぜ模擬原爆が慌ただしく投下されたのか。原爆を投下するには技術が必要でした。目視で原爆を目標地点に投下する。投下とともに自らの機体が被爆しないように急旋回させる。それも B29 という巨大な爆撃機をです。当時完成したばかりの実物の原爆は 3 発しかなく、それを想定通り実戦投下するためには訓練が必要でした。その訓練用爆弾が模擬原爆だったのです。

模擬原爆の存在が歴史の明るみになったのは戦後の平成 3 年（1991 年）です。愛知県春日井市の市民グループが国会図書にあった米軍資料から模擬原爆の投下場所の一覧表や地図を見つけました。模擬原爆の事実を解明してゆくと人類最悪の兵器原爆がどのような意図で使用されたかが見えてきます。

模擬原爆追悼碑は令和元年(2019 年)5 月末マンション建設に伴い恩楽寺(田辺 1-14-18)山門に移設されました。恩楽寺本堂も模擬原爆の爆風で傾いた被災モニュメントです。毎年 7 月 26 日の投下時間に碑の前で追悼式が行われます。

79.　市バス矢田終点付近の今昔

所在：矢田４丁目２・３間

写真左側にパーマ　フクダ美容院の看板が見えますが、経営者の子息・福田大作氏が現在も当地にお住まいで、写真が撮影された昭和 34 年（1959 年）には 17 才であったので、よく覚えておられました。現在の矢田 4 丁目 3 が福田家で、その北側（写真右側）が 4 丁目 4 の市バス 54 系の矢田終点であった場所です。バス停留所の西側の大きな建物は農協倉庫で、現在はバス停留所と倉庫の用地を 1 つにして住宅が建てられ、東向きの建物は喫茶ファミリーとなって、バス停当時の様子を知る人は少なくなっています。
福田家の北側を東西に流れていた細い川は生活排水溝で、現在は下水管に替えられて、道路の一部になっているようです。福田家と農協倉庫間の奥（西方向）に森が見えますが、森は伐採され、この東側あった池も埋立てられて、幼稚園と公園になっており、池とバス停間の田畑には多くの建物が建造され、昔の面影は全くありません。当バス停と西田辺間をつなぐ南北のバス路線（54 系）は現在では、東住吉区役所や行基大橋、大阪メトロ西田辺駅、あびこ駅などを走る路線に替わっています。また、近鉄矢田駅を西方向に赤バスも走っていました。

昭和 34 年市バス矢田終点付近（建物は農協倉庫）